

「子供たちの未来づくり」④

大学入試制度が変わる？



このところ「大学入試制度改革」といったニュースが新聞によく掲載されるようになった。まだまだ先の話だし、具体的なことも決まっていないので、関心を持つ人は少ないに違いない。しかし！である。改革の実施時期だけは何故かもう決まっていて、それは2021年春の入試から。つまり、現在の小学6年生が大学受験をする時から改革されるのだぞうだ。今、小学生のお子さんをお持ちの親御さんにとつては決して他人事ではなさそうなのである。

そもそも何の為の改革なのだろうか。私なりに考えを述べてみたい。

戦後荒廃した日本を奇跡的なまでに復興させ高度成長を達成した日本。その原動力になった勤勉な若者たちを育てたのは、学校だった。そこでは基礎をたたき込み、反復練習して基本を身に付ける教育が行われた。その基礎・基本を身に付けた若者たちによって、日本の高度成長は見事に実現されたわけである。

そして、戦後50年前後を経た1990年代になって潮目が変わる。それまで必死になって追い付き追い越そうと目指してきた欧米に日本は追い付き、

世界のフロントランナーになっていたのである。こうなると、日本が果たすべき役割は全く変わってくる。端的にいえば、モノマネではない「独創力」が必要になってくる。しかし、今までのような教育を受けた人材からは、独創的なモノは生み出せないのである。スマホやネット検索などの新商品を生み出したアップルやグーグルのような起業家は日本では生まれなかった。

小6の親期待と懸念



ここから、「暗記」や「知識」だけに偏重したこれまでの教育を大変革して、「考える力」「答えのない問題に答えを見出す力」を身に付ける教育に変えていかねばならないという考えが生まれてきたのである。そのために大学入試制度を改革する動きが始まったというこのよつだ。

それでは、この改革が小中学校に、どんな影響を与えるのか、次回に述べてみたい。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲